

情 報

省の見解を示し、歯科技工士の質の確保という視点で、今後、省令等を改正する方向で検討を開始した。同改正は平成15年度中を予定しており、改正に当たり現行の歯科技工所運営に支障を来すことのないよう経過措置期間をおくと報告された。

中西茂昭日本歯科技工士会会長は、歯科技工士の環境整備のため努力してゆくための一方策として、国政に参加しなければならないと決意し、次回選挙に歯科技工士会より立候補者を出すことを報告があった。

渡邊嘉一厚生科学研究主任研究員は大綱化カリキュラム、養成期間、教員の質的向上策、国家試験ガイドライン、卒業後の生涯学習について研究結果を示した。3名の発言後ディスカッションが行われた。国家試験の全国統一化についての質問に対し、瀧口徹歯科保険課長からは実技試験は絶対不可欠であり、実施するため厚生科学研究で出題基準、採点基準等の検討を行っている旨回答があった。1学級35名以下の省令についての猶予期間についての質問には、末瀬一彦全技協会長から既に省令が施行されているため協力をお願いする旨の要請があった。また、学生による臨床実習の実施の是非についての質問には、瀧口徹歯科保険課長から法解釈が適正であれば実施可能との返答があった。

5月16日（金）は9時30分より総会が開催された。（下河辺学長、佐野教務部長、藤口助教授出席）大塚弘介副会長（東京歯科技工専門学校校長）の開会の辞の後、末瀬一彦会長が挨拶し、質が高く、社会に受け入れられる歯科技工士を養成するための努力要請、1学級定員35名の厚生労働省省令に対する協力要請、全技協開催の各研究会への参加要請、ならびに、歯科技工士国家試験の全国統一試験の実施に向け検討中である旨の報告があった。また、全技協を法人化する為、中村道雄新東京歯科技工士学校校長を委員長とした協議が開始されたとの報告があった。ついで、来賓挨拶として、中西茂昭日本歯科技工士会会長が立ち次期参議院選挙への立候補にむけて協力の依頼があった。

中村道雄新東京歯科技工士学校校長が議長に選出され、議事に入った。

初めに阪秀樹副会長（埼玉歯科技工士専門学校理事長・校長）より平成14年度の総会、理事長・校長会議、教務主任会議、教員講習会、実技研修会、歯科技工士国家試験問題集の編集・発刊、教本教材の斡旋、その他として地区会議報告、理事会報告、役員会報告、会長会務報告があり原案通り承認、可決された。ついで、議事に入り、第1号議案として平成14年度収支予算案について、山本哲典会計理事（滋賀県歯科技工士専門

学校）より提案理由の説明があり、原案通り承認、可決された。2号議案として阪秀樹副会長より、平成15年度事業計画案が示され、原案通り承認、可決された。3号議案の平成15年度収支決算を、山本哲典会計理事が報告し、原案通り承認、可決された。4号議案は全技協に多大な貢献があった先生に対し、感謝状を授与する旨の提案があり承認、可決後、大森 三生（京都歯科医療技術専門学校）浮田 恵司（愛知学院大学歯科技工士専門学校）の2先生へ感謝状が手渡された。

閉会の辞を田上順次理事が述べ総会を終了した。

ついで、第1日目に行われた教務主任会議の報告が各グループの書記の先生から行われ、11時30分に会議は終了した。

総会終了後の12時30分より、文部科学大臣指定校での共通問題を討議するため指定校の14校中11校が参加（オブザーバー：神奈川歯科大学附属歯科技工専門学校）した歯科技工士学校連絡会議が開催された。本学より下河辺学長、長谷川教授、佐野教務部長、藤口助教授が出席した。内容は就学年数、国家試験統一試験、学生の臨床実習、教員資格等についての方向性を決めるために今後も協議していくこととし、また、教育のあり方、就職・求人関係等の情報交換をすると決議して14時に終了した。

附属歯科診療所歯科技工室の活動

井上 篤¹⁾、野村 章子^{1,2)}、高見 大介¹⁾

附属歯科診療所歯科技工室¹⁾、歯科技工士学科²⁾

平成15年10月1日より、歯科技工室長（野村）および沖歯科工業からの出向歯科技工士2名（高見、井上）による附属歯科診療所歯科技工室としての業務を開始した。そこで、歯科技工室での歯科技工物製作に留まらず、診療、教育、研究における各関係者との連携を大切にし、質の高い歯科技工、教育を目指して現在まで行ってきた活動について報告する。

1. 活動

歯科技工

- ・平成15年10月1日より診療所歯科技工物を学内で製作する体制へ移行するための資料作成と打ち合わせ。
- ・診療所歯科技工物の模型の確認と配当*¹⁾。
- ・診療所歯科技工物に関しての歯科医師との打ち合わせ。必要に応じて製作予定表*²⁾の作成。
- ・診療所歯科技工物の製作。

情 報

- ・工程表（歯科技工物製作記録）の記入。
- ・歯科技工物製作に必要な材料の発注申請，材料の管理および保険適用金属（Pd, Ag）の貴金属管理帳の設置と管理。

臨床実習指導

- ・生体技工専攻科実習担当教員とともに生体技工専攻科学生へ臨床模型を配当。学生の技術力に応じ

た練習模型を配当。

- ・「ティーチングアシスタント」*³としての臨床実習指導。（表1）
- ・生体技工専攻科臨床実習記録*⁴の確認とコメントの記入。
- ・歯科技工士学科2年生の臨床実習指導。（表1）

生体技工専攻科1, 2年生

実 習 期 間	実 習 形 式
1年生（学生数2名） 10月10日（金）～ 3月16日（火） 講義時間を除く週1日	有床義歯および歯冠修復に1名ずつ分かれ、1ヶ月サイクルで交替。
2年生（学生数4名） 4月11日（金）～ 2月13日（金） 講義時間を除く週2日	有床義歯および歯冠修復に2名ずつ分かれ、1ヶ月サイクルで交替。

*実習時間は、8:45～16:15まで。ただし、臨床実習進捗状況に応じて、時間外にも指導を行った。

*生体技工専攻科2年生のうち、2名については、患者担当制を導入したことから、上記の実習期間、実習形式とは一部異なっている。

技工士学科2年生

実 習 期 間	有 床 義 歯	歯 冠 修 復
10月27日（月）～ 10月31日（金）	3, 6	8, 9
11月 4日（火）～ 11月 7日（金）	6, 10	9, 15
11月10日（月）～ 11月14日（金）	10, 12	15, 24
11月17日（月）～ 11月21日（金）	12, 8	24, 3
11月25日（火）～ 11月28日（金）	8, 9	3, 6
12月 1日（月）～ 12月 5日（金）	9, 15	6, 10
12月 8日（月）～ 12月12日（金）	15, 24	10, 12
12月15日（月）～ 12月19日（金）	24, 3	12, 8

表内数字は学生番号を示す

*学生数は、8名延べ32名。

*実習時間は、9:00～16:15まで。ただし、講義・演習時間（主に、月・木曜日の3・4時限および金曜日の1時限）を除く。

表1. 平成15年度臨床実習指導日程

研究活動

- ・学会，研究会等の発表・参加
本学学術大会，野村研究室プレゼンテーション，
附属歯科診療所研究会，歯科技工士学科ミーティ

ング，明倫短期大学学会月例研究会，生体技工専攻科への進路相談会，学内外セミナー（総義歯特別講義，松風臨床講座，本学公開講座，歯科医学大会）などに出席。（表2）

25th ASIA PACIFIC DENTAL CONGRESS

『Simple tests for prosthodontic treatment evaluation』（野村ほか）

日本歯科技工学会

『細いCo-Cr合金線を使用したクラスプの少数歯中間欠損症例への応用』（野村ほか）

『0.7mmφ以下の細いCo-Cr合金線を使用したクラスプの維持力-合金線の太さ，アンダーカット量，アンダーカット域における鉤腕長の影響-』（熊倉，野村ほか）

明倫短期大学学会学術大会

特別講演

『私の臨床研究-新潟大学から明倫短期大学に繋ぐ-』（野村）

一般講演

『レーニングシステムについての一考察』（高見，野村ほか）

『照度からみた技工作業環境について』（井上，野村ほか）

『非接触3次元デジタイザーを用いた客観的実習指導法に関する研究』（木暮，野村ほか）

表2. 学会発表

情 報

今後の活動に応じた環境整備

・平成16年度から、教育系歯科技工士全員が附属歯科診療所歯科技工物の製作に従事する*5予定であるが、これに伴い歯科技工室では遅滞なくスタートできるように環境整備を進めている。

2. 成果

歯科技工

歯科技工室での歯科技工物製作だけに留まらず、附属歯科診療所に出向き、歯科医療スタッフの一員としてスタッフ内および患者とのコミュニケーションを深めることで、信頼関係が確立できた。また、歯科技工物製作に際し、歯科医師との綿密な打ち合わせ、および診療見学を行なうことで得た情報を歯科技工物に反映することができた。

臨床実習指導

生体技工専攻科2年生においては、生体技工専攻科実習担当教員との連携で患者担当制を導入し、歯科技工物製作前の症例検討から歯科技工物Set後の経過観察まで順を追って診療見学を行なわせた(図1)。このことで、歯科技工の手技だけでなく、歯科医療の実際について理解を深め、医療従事者としての自覚を促すことができた。



図1. 生体技工専攻科生(写真右)が診療現場に臨んでいる。多数回の見学実習において、患者と会話を交わすことも経験する。

研究活動

歯科技工に関わる特定の分野に焦点を絞り、詳細に追求していく姿勢、および資料作成やプレゼンテーションの手法を身につけることができた。

3. 今後の課題と対策

歯科技工全般にわたる技術の向上

咀嚼や嚥下機能、そして発音や審美など、人と

しての生活に大きく関わる分野での患者の評価、いわゆる「QOL」を今後ますます高める必要がある。そのためには、広い視野での情報収集に努め、歯科技工全般にわたる技術の向上が必須である。これに伴い、歯科技工に必要な備品については、新規購入するように準備手続きを進めている。

卒業後即戦力となる学生指導

臨床実習を通して、学生から問題提起があった場合に、短絡的な○×式の解答で物事を判断せず、総合的に考察できる指導を心がけている。しかし、種々の場面で臨床に即した判断力と技術、スピードが不足している。そのためには、マンツーマン指導の充実、学生の技術力に応じた指導方法を採用することによって、卒業後即戦力となる歯科技工士の育成が可能になると考えている。

歯科技工物完全内製化を見据えた業務体制の検討

現在、診療所歯科技工物は歯科技工室において学内製作分として配当するとともに、消化できない分は沖歯科工業㈱に外注しているのが現状である。

将来、歯科技工物の完全内製化に向かうためには、

①臨床実習の充実化を図り、臨床ケース数の増加につなげる。

②教育系歯科技工士も歯科技工物製作に参画し、歯科技工物の質を向上させる。

など、今後の業務体制の検討が必要である。

*1 模型の配当は、学内製作および沖歯科工業㈱への外注分。

*2 チーム医療の一環としてスムーズな連携体制を作り、患者に治療方針と治療計画を示す。

*3 「歯科技工室の改革について、第4案」の中で、学内において実習指導にあたる出向歯科技工士を「ティーチングアシスタント」と呼称した。

*4 学生が所定様式に製作記録を記入して完成技工物とともに提出する。指導教員によるコメントを記入し、歯科技工物の装着後に担当医が完成度などのコメントを記入した後に、学生へ返す。

*5 「歯科技工室の改革について、第4案」の中で、「臨床歯科技工技術のスキルアップとFD (Faculty Development: 教育指導能力の向上) を図ることとする。」としている。

情 報

歯科技工室の発展に向けて

今後は、歯科技工室における歯科技工，臨床実習指導，研究活動その他の業務配分の十分な整理化を行っていききたい。また，当初からの目標である質の高い歯科技工，教育を念頭に置いて，過度の負担にならない範囲でより良い方向を目指し，課題をクリアしていくうえにおいて今後も各関係者との連携を大切にしていきたい。

英国学位の取得

歯科衛生士学科 助教授 廣瀬 浩二

平成15年12月に英国バーミンガム大学大学院修士課程を修了し，MA in TEFL/TESLの学位を取得しました。入学にはバーミンガム大学大学院規定の学力が必要でした。私は遠隔学習が中心でしたが，評価のレベルは英国居住者と同一です。途中から英国居住に切り替えることも可能でした。修了には120単位を取得することが義務づけられています。この学位を取得するた

めに次の研究を行ないました。(1) 言語指導法 (2) 第2言語習得 (3) 語彙 (4) 談話 (5) テスティング (6) コーパス言語学及び (7) Dr. Sada Daoud の指導による修士論文のためのリーディング方略研究です。修士論文の作成にあたっては学習方略研究の専門家であるメリーランド大学のDr. Rebecca L. Oxfordとヨーク大学のDr. Anita Wendenの両先生にも貴重な指導を受けました。権威のある先生方の指導のおかげで無事にMAの学位の取得に至りました。特に，Dr. Daoudには感謝しています。最後に，私の研究に対し理解し支持してくださった明倫短期大学の諸先生方に感謝致します。

廣瀬浩二先生は2003年12月12日，英国Birmingham大学（教育・研究面から全英105大学中17位にランク）においてMA in TEFL/TESL（Master of Arts in Teaching English as a Foreign Language/Teaching English as a Second Language：外国語もしくは第2言語としての英語教授法に関する修士号）の学位を授与されましたのでお知らせ致します。（文責 小黒 章）